

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

資料5-2

協議会名: 武豊町地域公共交通会議

2022/12/●

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
フジキュー整備株式会社(令和元年10月から令和4年9月まで運行)	コミュニティバス 青ルート	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ネットワーク全体の考察・地域交流路線基幹バスの利用状況データ分析と収支状況のモニタリングを行った。</li> <li>●計画策定・青ルート見直し・利用促進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民とのワークショップを行いながら交通計画を策定(R04.4)</li> <li>・フィーダー系統の青ルートは、公共施設(屋内温水プール)のオープンに合わせた停留所の変更を実施。令和4年10月からはルート見直しによる利用者増を目指す。</li> <li>・住民団体(武豊町コミュニティバス・生活の足を考える会)と利用促進事業を継続実施する。</li> </ul> </li> <li>●高齢者への周知について <ul style="list-style-type: none"> <li>・65歳以上の運転免許証の自主返納者と70歳以上の高齢者を対象に無料乗車券の交付を行い、申請時に併せてバスの利用方法の説明で利用促進に繋げた。</li> </ul> </li> </ul>	A 計画通り事業は適切に実施されている。	A 令和4年度の利用者数は25,655人となり、コロナ前の水準を上回り、過去最大の月利用者数も記録し、目標値を達成した。  青ルート 目標:22,400人 実績:25,655人	バスネットワーク全体から、幹線系の赤ルートとフィーダー系の青ルートの役割分担は、人口密度が高く主要施設の多い北部エリアを赤ルートがカバーし、人口密度が低い郊外部を青ルートがカバーしていた。 分担の性格の違いから、青ルートは赤ルートに比べ便当たりの利用者数は少ないという課題を抱えていたが、赤ルートがカバーできないエリアを対象に青ルートを北部へ延伸させるルートの見直しを令和元年10月に行い、令和4年4月に地域公共交通計画を策定した。また、同じく令和4年4月の公共施設(屋内温水プール)のオープンに合わせ、停留所の変更を実施した。 令和4年10月からはルートの見直しによる利用者増を目指し、新たな駅(鉄道)や医療施設等との接続を実施する。 ルートの見直し後も毎年利用実態を確認し、見直しなどを行う。 また、住民団体(武豊町コミュニティバス・生活の足を考える会)との利用促進事業を継続実施していく。  車両の老朽化に伴い、更新車両は環境に配慮した電動バスの導入を予定し、先行して急速充電設備を設置した。